

&lt;認知症対応型共同生活介護用&gt;

## 1. 調査報告概要表

作成日 平成21年8月28日

## 【評価実施概要】

事業所番号	” 0195100037
法人名	株式会社 日本キャリアサービス
事業所名	グループホームだんらん紋別
所在地	北海道紋別市落石町27-2 (電話) 0158-26-4605

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成21年8月25日

## 【情報提供票より】(21年7月1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 20 年 8 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	17 人 常勤 14 人, 非常勤 3人 常勤換算 5.4 人

## (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	26,000~30,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		900 円	

## (4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	6 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.9 歳	最低	62 歳	最高	97 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団紋別みなと病院 ・ 医療法人社団さとう歯科
---------	-----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームだんらん紋別は、紋別市落石町市街地に立地し、2階建て2ユニットになっています。『いつも笑顔がはじける信頼の我が家だんらん』の理念の基、ホーム長、職員はホームが利用者にとって第二の我が家である様にとの思いで、理念に沿ったケアサービスに取り組んでいます。利用者は元より家族との信頼関係構築の為ホーム長は毎月家庭訪問をし、利用者、家族の意見や希望の把握に努め、安心して生活が送れる様にとの配慮がされています。3ヵ月毎に実施のカンファレンスには、利用者、利用者家族、ホーム長、ケアマネージャー、介護担当者が参加し、利用者本位のケアサービスに努めています。ホームを訪れるとセラピー犬が出迎え、明るいホーム内には随所に季節の飾り付けや生花がさり気なく飾られ、心と和む雰囲気の中、利用者はのんびりと穏やかに過ごしている様子が感じられます。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善項目については、ミーティングで話し合い、日々ケアサービスを実施する中で改善に取り組んでいます。重度化や終末期に向けた方針の共有に付いても、本年、指針を定め、家族にも説明がされています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で自己評価に取り組むホーム長が纏め作成しています。自己評価を行う中で自己のケアを振り返り、各自、個人目標を立てサービス向上に取り組んでいます。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヵ月に一度、利用者、利用者家族、近隣住民、権利擁護委員、行政職員、市内他グループホーム管理者等と幅広く声を掛け開催しています。状況報告や活動報告等に付いて活発に話し合わせ、日々のサービス向上に活かしています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホーム長、職員は家族の訪問時を大切な機会と捉え、利用者の様子を伝え、意見や要望等何でも言って貰える関係を築いています。又、毎月ホーム長が家庭訪問し、利用者の様子を伝え、家族の不安にも対応しています。3ヵ月毎に開催されるカンファレンスに利用者、利用者家族も参加し、意見、要望を聞き利用者本位のプラン作成に繋げています。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、清掃活動や、花壇整備に利用者と共に参加しています。地域の小学生の体験学習の受け入れも行われ交流に努めています。近隣住民とも日常的に交流し、畑の土地を借りる等、協力関係を築いています。

(有) NAVIRE

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「いつも笑顔がはじける信頼の我が家だんらん」という理念を掲げ、利用者とのなじみの関係を築く事に取り組んでいます。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念を事務室、各階廊下に掲示し、その理念とは別に職員が日々ケアの実践に向けた個別目標を掲げ、取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し地域の道路清掃や花壇の整備への参加や、小学生や中学生の体験学習の受入、年末に行なわれる恒例の餅つき大会では、家族は元より近隣住民も参加して盛大に行なわれ交流しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員が取り組み、ホーム長が取りまとめています。外部評価の目的や意義を職員に伝え、改善項目についてミーティングで全員で話し合い、改善に取り組んでいます。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月毎に開催され、近隣住民・紋別市福祉課担当者・市内他のグループホーム管理者・家族・利用者・ホーム長職員等で構成されて、意義とホームの現状報告・意見要望・事故報告等を隠さずオープンにして改善する目的で議事録を作成してサービスの質の向上に努めています。	○	会議の議事録を当日欠席者に配付していますが、出席者や家族全員に配付し、情報の共有に努め、サービスの質の向上に活かす事を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市介護福祉部や地域包括支援センターの会議に出席したり、消防署との訓練の連携や運営相談にもものってもらいサービスの質の向上に取り組んでいます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	季刊誌として「だんらんだより」を発行しており家族に手渡し、そして毎月家族訪問を実施してより良い関係を築く事と、面会や手紙でも意見要望を言える機会を増やし、ミーティングで話し合い家族に報告をしています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の家庭訪問は元より、家族に電話や面会時に利用者の様子や受診結果など随時報告をしており、概ね3か月毎のケアカンファレンスに出席してもらい意見要望を反映できる仕組みがされています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	3年間離職者が出ておらず、ホーム長と職員は利用者との馴染みの関係に努めています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内を掲示し勤務ローテーションを調整しながら、ホーム長や職員が参加しています。研修結果を報告書にまとめミーティング時に報告し職員全員が把握しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	網走管内グループホーム協議会・遠軽・紋別地区のグループホームが集まり勉強会を開催し、管理者や職員が取り組み情報交換や交流を行なっています。ホーム長は認知症サポーター養成講座研修講師を行なっており他の同業者とも交流をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の今迄の暮らしや趣向などを家族から聞き取り、事前見学を通して外泊を取り入れながら、利用者や職員とのコミュニケーションを図り馴染めるよう配慮されています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家庭訪問を行なうことにより利用者の喜怒哀楽を理解し、出来ることを見守りつつ、調理の下ごしらえや掃除、花の世話や畑仕事を職員と一緒にしながら学んだり信頼関係を築く工夫をしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のシートを使用して利用者の希望や家族の意向を把握し、生きがいや満足を与える工夫を、ミーティングで職員同士話し合い支援に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3ヶ月ごとにケアカンファレンスを行い、介護支援専門員がリーダーになって家族・ホーム長・担当職員が話し合い、意見を反映したケアプランに努めています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとにケアプランの見直しを行っていますが、状況に変化があった場合、利用者・家族と共に話し合い新しいケアプランの作成を行なっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院への受診・送迎支援、散歩や美容院、ドライブなどの外出支援、銀行や買い物の支援も行なっています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医や協力医療機関への受診に職員が同行し、必要に応じて家族も同行してもらい支援をしています。急変があった場合など相談できる関係が築かれています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今年度から重度化に伴う意思確認書を作成して、利用者及び家族と利用開始時に看取りについて話し合い、かかりつけ医を含め、状況の変化に応じ方針を共有しています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉をかける時などゆつくりと聞き取りやすく声かけをするように心掛け、個人情報の保護についてミーティング時に話し合い、介護日誌の記入はスタッフルームで利用者を見守りながら行い、ケア記録を目に付かない場所に保管しています。利用者・家族から個人情報の同意書も取り交わしています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活ペースに合わせた支援を行う様心掛けています。また一人ひとりがその日にしたい事を充分把握して支援をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のリクエストを聞いて献立に反映し、一緒に楽しく食事が摂れる様に心掛けています。嚥下困難な場合はきざみ食やお粥にするなど状態に合わせて工夫をしています。食事の後片付も利用者の役割を持ってもらっています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や時間帯は決まっていますが、利用者の希望やタイミングによりいつでも入れる支援を行っています。入浴拒否したりする利用者については意思を尊重しつつ対応する支援をしています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で力を発揮出来る様、食事の下ごしらえや後片付・花の水遣りや畑の世話、犬の餌やりから掃除まで役割を持って支援をしています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花壇や畑の世話は勿論の事、散歩や食材の買出し、地方の公園へ車での外出、美容室への送迎等もしています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は防犯上午後9時以降施錠をしますが、それ以外は自由に入出でき、鍵を掛けない支援に取り組んでいます。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画を作成して、消防署立会いの下避難及び消火訓練を昼間・夜間想定で年2回以上実施しています。	○	夏と冬、日中と夜間を想定して年2回避難訓練の継続実施と、近隣住民の協力を得る為、消火訓練の参加や運営推進会議で住民の協力方法を話し合い理解をしてもらいより良い関係を深めることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重測定を実施、概ね1000～1500ccを目安に水分の摂取や食事の摂取量の記録をして職員間で共有しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて花や観葉植物を置き、壁に手作りの作品を張り、季節感を感じる工夫を取入れています。不快な音や光がない配慮もされています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使用していた布団・タンス・鏡台・テレビ・人形・写真等を持ち込み自分らしい空間で生活をしています。		